

平成 30 年度 第 1 回「佐世保市環境教育等推進協議会」議事要旨

(1) 計画策定スケジュール	
事務局	《資料 2 について説明》 10 月の第 4 回協議会まではタイトなスケジュールとなっており、大変お忙しい中、ご迷惑をおかけするが、ご協力をお願いします。
委員	意見なし

(2) 佐世保市環境教育等推進行動計画の概要	
事務局	《資料 3 について説明》 「人づくり」・「地域づくり」・「ネットワークづくり」の 3 つの柱を中心として事業を推進している。 「人づくり」では、環境市民を育成することが重要であると考え 3 つの施策に 8 つの具体的な方向性を示している。 「地域づくり」では、各主体単体による取り組みでは限界があることから、地域が一体となって進めることが必要であると考え 2 つの施策の中に 5 つの具体的な方向性を示している。 「ネットワークづくり」では、「人づくり」・「地域づくり」をより一層推進していくために、「させぼエコプラザ」を中心として、各主体の協働取組を促進する「ネットワーク」を構築し、あらゆる主体の環境保全活動が活発に行われるような仕組みづくりを行うため、2 つの施策の中に 4 つの具体的な方向性を示している。
委員	意見なし

(3) 佐世保市環境基本計画（2018 年度～2027 年度）の説明	
事務局	《資料 4 について説明》 環境基本計画では、本市が目指す望ましい環境像として「自然と共に生きるまち させぼ」を掲げている。 その環境像の実現に向けた取り組みの一つとして「環境保全活動の推進」があり、これを実現させていくための計画が「佐世保市環境教育等推進行動計画」である。 この基本目標のほかにも、重点プロジェクトとして「環境市民」を育成していくことを目指していることから、今回改定を行う「行動計画」については、環境基本計画でも重要な位置付けとなっている。
委員	意見なし

(4) 持続可能な開発のための教育（ESD）の説明	
事務局	<p>《資料 5 について説明》</p> <p>議事の四つ目の「ESD」及び五つ目の「SDGs」については、環境教育における世界的な動きとして使用されるものであることから、紹介するものである。</p> <p>「ESD」とは、一人ひとりが世界の人々や将来世代、また、環境との関係性の中で生きていくことを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育のことである。</p>
委員	意見なし

(5) 持続可能な開発目標（SDGs）の説明	
事務局	<p>《資料 6 について説明》</p> <p>2015 年の国連サミットで「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」というものが採択された。</p> <p>その中で「持続可能な開発目標（SDGs）」という言葉が出てくる。これは、国際社会全体の目標であり、日本においても政府や地方公共団体だけでなく、学校や企業・団体でも取り組むところが増加している。</p> <p>また、日本では国家戦略の中で、あらゆる場や発達段階に応じた適切な教育が実践されるように、ESD を推進していくことが示されている。</p>
委員	意見なし

(6) 基本的施策の方向性の整理	
事務局	<p>《資料 7 について説明》</p> <p>《1 計画期間》</p> <p>まず計画期間を 4 年間とする理由として、環境基本計画と期間を合わせることで、統合が取れ、より効率的な行動計画となると考えられる。</p> <p>また、市民への分かりやすさや、計画の推進における効率性などから、今後 4 年間で、環境基本計画との統合についても検討をしていきたいと考えている。</p> <p>《2 新たな環境基本計画と現行動計画の基本的方向性》</p> <p>環境基本計画の「基本目標 6」の「30 年後の目指す姿」そのための「取り組み」及び「重点プロジェクト」を記載している。</p> <p>資料右側に「現行動計画の基本的方向性」を記載している。</p> <p>《3 総合・活動指標の目標達成状況》</p> <p>右側の課題等の欄には、目標値と比較して実績が少ない項目について記載している。</p> <p>九つ目「させぼエコプラザの利用者数」は、平成 29 年 7 月から温暖化</p>

	<p>対策を強化した「地球温暖化防止活動推進センター」の機能を追加し、環境教育・地球温暖化対策を総合的に推進しており、順調に利用者数を伸ばしている。</p> <p>十、十一番目の「指導者、団体の登録数」については、昨年度から要綱等を整備し運用を開始したばかりで、各団体へ登録案内中となっている。</p> <p>また、登録団体・指導者にとってどのようなメリットがあるのか、登録制度の周知方法や、活用しやすくなる方法という課題がある。</p>
会長	<p>計画期間については、現行の行動計画は5年間であるが、環境基本計画の中間見直し時期である2022年度に合わせ4年間とするということである。</p>
委員	<p>活動指標の四つ目、学校支援についての事業内容や課題についてもう少し詳細を知りたい。</p>
事務局	<p>講師の派遣としては、させぼエコプラザの職員1名での対応となっている。</p>
委員	<p>この実績値は、学校版環境ISOの一環で、ゲストティーチャーとして、私が学校へ訪問しているものである。</p> <p>認知度が低い理由としては、先生が異動されて、もう必要なくなったという理由や、そもそもこういう制度を知らないといったことがある。</p> <p>ここ数年は営業活動を行ってきかなかったが、先生の入替わり等で認知度が低くなってきたことから、また営業を行わなければならないと感じている。</p> <p>また、時間数については、一校当たり7~8回訪問している状況である。そのため、単発で短く色々な学校へ訪問できるようメニューを考えてみたいと思う。</p>
委員	<p>時間数を取られるのは理解するが、派遣する講師が1名ということで、要望があるが、いけませんではダメだと思うので、講師の確保が必要であると考えている。</p> <p>認知度については、校長会などでアナウンスしてもらっただけでも十分に周知できるのではないかな。</p> <p>講師というのは、どのように集めればよいのか。</p>
委員	<p>今までは、学校支援を行う環境学習支援室というものがあつたが、昨年7月にさせぼエコプラザに統合し、別団体が運営を行っている状況である。</p> <p>今後は、佐世保市が団体や指導者の登録制度の運用を開始して、募集している状況である。それが定着してきたら、その制度を活用し講師の確保が出来るのではないかな。</p>
委員	<p>運用を開始したばかりであるが、今後充実させていきたいと考えている。</p>
会長	<p>新たに体制が構築されていく中で、広報も大切であると感じる。</p>
委員	<p>毎日、子どもたちと接する中で、外部の先生からお話をいただくことは、</p>

	<p>良い刺激になっていると感じる。</p> <p>周りには、いろいろな環境の知識を持っている方が沢山いらっしゃるの で、ぜひ、制度運用に力を入れていただき、子どもたちが環境に目を向け られるような環境づくりを行っていただきたい。</p>
委員	<p>ビジターセンターでは、学校からの要望が多くなっている傾向である。 観光商工部所管であるが、市としてカウントできるようなことが出来ない のか。</p>
会長	<p>計画策定に当たっては、必ず指標づくりがでてくるため、指標の中にそ ういったものが入れられないか検討を行っていただければと思う。</p>
委員	<p>講師という面で、仕事として行われている方以外は、個人やボランティア であるため、それに見合う費用を負担していただかないといけないと考 えている。(実費的なものは最低限必要である。)</p> <p>自分で勉強して、資料を作成して、会場まで出向いて、何も費用が出 ないことがある。</p> <p>そこを調整していかないと、中々、増えていかないとと思う。</p>
委員	<p>出前講座のようなときは、ちゃんと支払われているようだが。</p>
事務局	<p>環境保全課においては、お支払している状況である。</p>
会長	<p>いただいた意見は、事務局で、反映できるか検討の上、計画の策定をお 願いする。</p>

(7) 今年度の事業 (予定)	
事務局	<p>《資料 8 について説明》</p> <p>現行動計画の、企保運的方向性の項目ごとに事業を整理し、記載してい る。委員におかれては、記載の事業以外にも、「こんなイベントあるけど どうだろうか」など、お気軽にご連絡いただければと思う。</p>
委員	<p>学校版環境 ISO について、認定校は増えているのか。</p>
事務局	<p>現在は、徐々に減っている状況である。</p>
委員	<p>以前は、目標が 10%削減、次の年度も 10%削減と厳しい目標が強いら れていた。学校によっては、電気をつけること自体が悪というような認識も あったようで、子どもたちが暗い中で勉強を行っていた。</p> <p>そういった中で、「美しかプロジェクト」などは参画しやすかったり、校 区内の保護者が講師となって、地域の不法投棄の実態などお話をしてく らうなど、子どもたちに身近なところから、どんどん進めてほしい。</p>
委員	<p>環境教育プログラムの充実とあるが、日本自然保護協会が今年、佐世保 で指導員の講習会を企画したいとのことであった。</p> <p>15 年位前に、佐世保市の協力も得て烏帽子で 3 日の日程で行われてい る。今回は 1 日でのプログラムで行いたいとのことであった。興味がある 方は是非参加してほしい。</p>
委員	<p>学校版環境 ISO について、最近は、教育環境を悪くしてまで行っても、 継続していかないことから、無理のない範囲で目標を設定してもらって</p>

	<p>り、結果よりも過程を重視した方向で事業を行っている状況である。</p> <p>極端に言えば、1校1目標でも良いとしているが、基本は、電気・水・ごみである。理由としては、使用量等を数値化でき、対外的にアピールしやすい項目となっているため。</p> <p>子どもたちが、子どもたちに伝えていく（大人から子どもたちではなく）、子どもたちが組織的に取り組みを学んで、学校にいる間は少しでも環境に関して取り組めることをやっていこうという方向で、数値を追い求めることから脱却している。</p>
委員	<p>各地区自治協議会が、環境に対してどのように取り組んでいくかという認識・意識を持つのか、それぞれの自治協議会の代表者などに話に行って、それぞれの地域の課題を掘り出していくことが大切ではないか。</p> <p>地域おこしなどと連携していかなければならないと思う。</p> <p>保健環境連合会ではなく、地域のことを全体的に把握している自治協議会と連携することが良いと思う。</p>
委員	<p>学校版環境 ISO は学校に限ることなのか。</p> <p>学校だけで取り組んでも、家に帰ったら水は出さばなし、電気はつけっぱなしという状況ではないかと思う。</p> <p>もっと学校でやったことを、家でもやっていくというような、幅広く事業を展開できないのか。そうできたら、より良いものになるのではないかを思う。</p>
委員	<p>学校版環境 ISO の認定証を子どもたちにわたす時には、常に、家庭でも実践してもらうように話をしている。</p>
委員	<p>最近の子どもたちは、そもそも論から話していかないと、なかなか伝わらない。（電気はなぜ消さないといけないのかなど。）</p> <p>テレビや電気をつけっぱなしで寝る子どもたちが多いらしいが、比較対象がないため、それを異常とも思っていない実態がある。</p> <p>節水・節電の話をするときに、震災の話をするが、子どもたちにとっては、既に風化していたり、そもそも知らない子どもたちがいる。その中でも、節水・節電の話をしなければならぬため、根気強く、なぜしなければならないのかを話している。</p> <p>また、郊外の子供たちは、当たり前前に自然に触れているため、自然を大切にするという意識が無いことがある。そのため、自然は大切に守らなければならないものであるということを教えている。</p> <p>子どもたちが学んで、学校に広め、定着したら、家庭へ波及していくということを理想としているが、環境教育は、なかなか結果が見えにくいといったことがある。</p>
委員	<p>家庭、学校、地域はセットだと思う。</p> <p>地域の中で、家庭、学校をどう位置付けていくのかというのが大切である。各地区自治協議会を通じて研修会などを開催すると良いのではないかと。</p>

	学校と地域と連携しながら進めていくことが大切である。
委員	環境教育は、子どもたちだけではなく、市民（大人）からの広がりがないと、進んでいかないと感じる。 エコフェスタを大々的に広げて、環境づくりはとても楽しくて、いろいろなことが出来ると思わせるようなお祭りにしてほしい。
委員	環境教育は学校、学校ではなく、市民全体の問題であるため、地域の環境問題を取り上げながら行ってなければならないと思う。
委員	事業者の関わりが薄いと感じる。今までの取組や事業はあるのか。今後どういう関わり方を考えているのか。
事務局	ご指摘のとおり、現在は、資料記載のとおり、「エコアクション 21」、「e 宣言@サセボ認証登録制度」程度の関わり合いになっている。
委員	先ほどの、指導者不足の話の中で、事業者の CSR 活動の中で、そういった人材がいる、いないといった状況というのは把握されているのか。また、期待できるものなのか。
事務局	エコアクション 21 というものが、中小企業の環境マネジメントシステムの促進という事業である。その中で、エコアクション 21 を取得するためには、CSR 活動の中で、推進するリーダーを選定し、展開していくことであるが、現状としては、エコアクション 21 取得事業者を増やすことで、CSR 活動、企業版の環境教育として進めているところである。 しかし、取得事業者が少ないこと、リーダー不足といったところがある。
委員	3 年位前に、長崎県のレッドデータブックが改正された。その時に各振興局で事業者を対象とした「開発に係る講習会」を開催している。 佐世保市でもそういった講習会を開催できたら良いのではないか。ちょっとしたことで、事業者への気付きとなり、理解を得られることとなる。
委員	川に対して、危険だという意識が定着している。 子どもたちが自然等に触れられない状況である。大人の考え方が、環境への思いを断ち切っているように思える。

その他	
事務局	今回「意見シート」を配布している。 本日、発言できなかったことや、持ち帰っていただき思いついたことなどがあれば、5月31日までに返信いただければと思う。 また、本日欠席の委員についても、意見を伺う予定としている。 次回は7月中旬を予定している。また、日程調整をさせていただく。